

目的 夏期休暇中、女子大生が自宅の個室をどのように利用しているか、また、そこでの生活が自宅通学者と非自宅通学者で異なるかどうか、更に休暇中でも曜日によって生活に違いがあるのか、などを調べ、女子大生の個室における生活状態を把握する目的で若干の調査を行った。

方法 短大の住居学履修者を対象に、自宅で就寝した連続3日間（標準日として8/2（金）、8/3（土）、8/4（日）を設定）について、NHKの生活時間調査に準じた方法で時間区分毎の生活を記号で記録させ、各人の個室において生活した部分について上記の分類にしたがって集計整理し、検討を行った。

結果 総合的に見ると、個室にいる時間の日平均は9時間余で、在宅時間平均の約55%になっている。生活行為の中で最大はやはり睡眠で、在個室時間の78%に及んでいる。勉学、身のまわりの用事、読書、ラジオがこれに次いでいるが、それらは1~6%で、その他の生活行為は1%以下である。自宅通学者と非自宅通学者の在個室時間の平均は9時間13分、9時間3分、睡眠時間はともに7時間8分で、あまり差はないが、在個室時間比、前者は勉学6.6%、読書3.2%となっているのに対し、後者は勉学4.3%、読書4.6%となるなど若干の差が見られた。金・土・日別では各項目の平均生活時間で見ると、自宅通学者の（土）の勉学時間が（金）（日）より10分程度長く、非自宅通学者の（日）の睡眠時間が（金）（土）より30分程度長いのが目立つ程度であるが、時間帯別では両者とも（土）の晩は夜遅くまで起きており（日）は朝寝坊しているなど曜日差が見られた。